

**JENESYS 日本・フィリピン文化交流（日本語学習高校生招へい）**  
**JENESYS2023 日本・フィリピン文化交流（日本語学習高校生招へい）の記録**

## 1. プログラム概要

【目的】日本語を学習するフィリピンの高校生が、日本語の使用体験や日本文化を学ぶことを通じて、日本への理解を深め、また日本語学習に対する意欲を高めることを主目的として実施しました。

【参加者】フィリピンの高校生 13 名及び引率者 2 名 計 15 名

【訪問地】東京都 15 名、岩手県 15 名

### 【日程】

#### ■ プレプログラム（オンライン事前学習）：

10月10日（火曜日） 【来日前オリエンテーション】事前学習及びネットワークの構築

挨拶：在フィリピン大使館 クルーズ・アリシア・ニコル 氏

来日までの指定期間 【課題学習（動画視聴）】「広島ピースツアー」「ホームビジット体験」「南三陸町からのメッセージ」「日本文化理解（京都）」「日本語」「日本と国連」「日本 ASEAN50 年の歩み」

#### ■ 招へいプログラム：

10月16日（月曜日） 成田国際空港より入国

10月17日（火曜日） 【来日時オリエンテーション】

【日本理解講義】「日本の社会と文化」

講師：JICE 日本理解講義講師 アンドラディ 久美 氏

【日本語レッスン】日本語講師：大石 寧子 氏

【視察】明治神宮・原宿

10月18日（水曜日） 【日本文化体験】ミニ畳づくり

講師：高岡屋常川畳店 6 代目 常川 泰平 氏

【学校交流】東京外国語大学

10月19日（木曜日） 東京都から岩手県に移動

【表敬訪問】久慈市 副市長 澤里 充男 氏、産業経済部部長 谷崎 勉 氏

【地域概要講義】「久慈市によろこそ」

講師：久慈市 総務部総務課 国際交流員 蒲野 裕子 氏

10月20日（金曜日） 【学校交流】岩手県立久慈高等学校

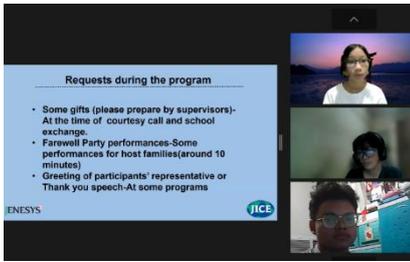
【視察】秋祭り山車（道の駅くじ「やませ土風館」）

【文化体験】琥珀削り（久慈琥珀博物館）

- 【ホストファミリー対面式】【ホームステイ】久慈市
- 10月21日（土曜日） 【ホームステイ】日本文化体験含む
- 10月22日（日曜日） 【ホームステイ】文化体験（餅つき）
- 【ワークショップ】報告会準備（訪日成果のとりまとめ、帰国後の活動計画（アクション・プラン）の作成）
- 【ホストファミリー歓送会】日本語スピーチ（日本語でホームステイの感想発表）
- 10月23日（月曜日） 【視察】平庭白樺美林散策  
岩手県から東京都へ移動
- 【報告会】
- 10月24日（火曜日） 成田国際空港より帰国

## 2. 記録写真

### プレプログラム（オンライン事前学習）

	
10月10日【来日前オリエンテーション】挨拶	10月10日【来日前オリエンテーション】

### 招へいプログラム

	
10月17日【来日時オリエンテーション】	10月17日【日本理解講義】「日本の社会と文化」
	
10月17日【日本語レッスン】	10月18日【日本文化体験】ミニ畳づくり



10月18日【学校交流】東京外国語大学



10月19日【表敬訪問】久慈市



10月20日【学校交流】岩手県立久慈高等学校



10月20日【視察】秋祭り山車（道の駅くじ「やませ土風館」）



10月20日【文化体験】琥珀削り（久慈琥珀博物館）



10月20日～22日【ホームステイ】



10月22日【ホームステイ】文化体験（餅つき）



10月22日【ワークショップ】報告会準備



10月22日【ホストファミリー歓送会】日本語スピーチ



10月23日【視察】平庭白樺美林散策

	
10月23日【報告会】	10月23日【報告会】記念撮影

### 3. 参加者の感想（抜粋）

#### ◆ 高校生

私にとって、久慈高等学校を訪問したことほど思い出に残るものはありません。同じ年頃でも、文化や教育によって人間はこれほど多様なのだと分かり、とても素晴らしい経験でした。

#### ◆ 高校生

一番印象に残ったことは、何と言っても、日本はどこへ行っても清潔で、皆さんが礼儀正しいことです。東京や岩手の街中でも、訪れた学校でも、皆さんがとても優しく、丁寧で、親切でした。

#### ◆ 高校生

ホストファミリーや迎えてくれた人達がとても優しく、大変嬉しかったです。そのお陰で、日本の文化がどれほど美しいかが分かり、日本をさらに身近に感じられるようになりました。

### 4. 受入れ側の感想（抜粋）

#### ◆ 学校交流校教師

参加者たちが複数の言語を使ってコミュニケーションをとっていたことが印象的でした。学生によっては、初めてフィリピンの方と仲良くなった人もいて、語学学習含め今後の学習の動機づけを得られたように感じます。

#### ◆ 学校交流参加者

日本で過ごしてきた中で全く気にも留めなかった点について、フィリピンの高校生は興味津々だったので、新たな視点が増えて面白かったです。

#### ◆ 学校交流参加者

フィリピンの高校生が話す英語は、普段私たちが授業で話している英語とアクセントが異なっていて、英語にも地域性があることを実感しました。フィリピンで日本の歌やアニメが人気である旨は知っていましたが、俳優なども人気があると知り、フィリピンの人たちと共通の趣味がたくさん見つかって嬉しかったです。

#### ◆ 学校交流参加者

フィリピンのナショナルフルーツがバナナではなくマンゴーだった事に驚きました。一生懸命日本語を話そうとしてくれて嬉しかったです。私も英語を頑張ろうと思いました。



私にとってのハイライトはホームステイです。久慈高等学校から1時間くらいの所に住む家族が温かく迎えてくれました。伝統的な日本の家で、畳があり、障子や襖があって、静かな佇まいでした。たっぷりと日本の文化につかれるなんて最高でした。ホストファミリーの温かさとおもてなしは言葉では言い表せないほど素晴らしく、三陸海岸でとれた新鮮な海の幸や本物の郷土料理を紹介してくれました。ごつごつした崖や、真っ赤に色づいた葉を揺らす気持ちのよい風の音が心に刻まれました。私はここで、地元の人達が周りの自然と深くつながっていることを心から理解しました。

ホストファミリーや久慈高等学校の方とお別れするのは寂しかったです。日本の生活を知っただけではなく、一生の友達ができました。賑やかなスクールライフ、穏やかなホームステイ、活気ある郷土の文化など、様々な経験から豊に織り合わさったタペストリーのようなものです。私は、岩手の旅で日本の神髄を知りました。それは、伝統と現代の穏やかな調和、自然との深い繋がり、そして温かく人を歓迎する心です。文化交流のもたらすパワー、教科書にもガイドブックにも載っていない世界を発見する喜びを持って帰ります。

る場所を楽しみましたが、特に東京外国語大学が楽しかったです。すごく疲れましたが、神様がくれた一瞬一瞬を堪能しました。

皆さん、また明日。

## フィリピンの高校生が久慈市訪問 県立久慈高校で交流

10月20日 18時11分



海外の学生などを対象とした日本への関心や理解を深めてもらうというプログラムの参加者が、19日から久慈市を訪れています。

久慈市を訪れたのはフィリピンの高校生13人です。

国が日本に親しみを持つ海外の人を増やそうと取り組んでいる「対日理解促進交流プログラム」の参加者で、20日は、はじめに県立久慈高校を訪問して、交流会で久慈高校の生徒から日本語のあいさつなどを教わりました。

一行はこのあと1年生の教室に移動し、久慈市の文化やフィリピンでも人気のある日本のアニメの話などをして交流を深めました。

1年生の中野睦季さんは「はじめは緊張しましたが、今までの英語の練習の成果が出たよかったです」と話していました。

このあと一行は日本有数の産地として知られる「こはく」の採掘場がある「久慈琥珀博物館」を訪れ、こはくを使った勾玉作りにも挑戦しました。

フィリピンの高校生は「海外の学生と会うのが初めてで言葉の問題もありましたが、とても楽しかった」とか、「フィリピンに戻ったら、この経験を家族や友達に伝えたい」などと感想を話していました。



沢里充男副市長にお土産を手渡す訪問団

## 比高校生 地域文化を体感

**久慈** 日本語を学ぶフィリピンの高校生13人は、19日までの5日間、久慈市に滞在し、農林漁家への民泊を通して交流を深めている。

一行は19日、市役所を訪問。アール・トワンさん(15)は「できる限りの多くの人とコミュニケーションを取りたい。久慈で最高の経験ができることを楽しみにしている」と期待を高めた。

**13人、農林漁家に民泊** 同国の菓子などを受け取った沢里充男副市長は「久慈は太平洋と山に囲まれ、人々が自然と共に暮らしてきた土地。積極的に交流を深め、風習や文化、人柄に触れてほしい」と歓迎しました。

政府が推進する対日理解促進交流プログラムの一環。久慈市の生徒との交流や琥珀作り体験、ホームステイを通して、地域文化を体感する。

2023年10月20日 (NHK 岩手 NEWS WEB)  
フィリピンの高校生が久慈市訪問 県立久慈高校で交流

久慈市を訪れたのはフィリピンの高校生 13 人です。国が日本に親しみを持つ海外の人を増やそうと取り組んでいる「対日理解促進交流プログラム」の参加者で、20日は、はじめに県立久慈高校を訪問して、交流会で久慈高校の生徒から日本語のあいさつなどを教わりました。その後、一行は日本有数の産地として知られる「こはく」の採掘場がある「久慈琥珀博物館」を訪れ、こはくを使った勾玉作りにも挑戦しました。フィリピンの高校生は「海外の学生と会うのが初めてで言葉の問題もありましたが、とても楽しかった」、「フィリピンに戻ったら、この経験を家族や友達に伝えたい」といった感想を述べていました。

2023年10月22日 (岩手日報)  
フィリピン高校生 地域文化を体験

日本語を学ぶフィリピン高校生13人は23日までの5日間、久慈市に滞在し、農林漁家への民泊などを通して交流を深めています。一行は19日、市役所を訪問しました。同国の菓子などを受け取った沢里充男副市長は「久慈は太平洋と山に囲まれ、人々が自然と共に暮らしてきた土地。積極的に交流を深め、風習や文化、人柄に触れてほしい」と歓迎しました。

## 6. 報告会での訪日成果とアクション・プラン発表

訪問地：東京都、岩手県

	
<p><b>【訪日中の学び】</b> 日本人は、礼儀正しく、時間をきちんと守り、親切で他者を思いやり優しいということが分かりました。また、ホストファミリーの家ではペットボトルを再利用できるように置いていました。学校は清潔でした。</p> <p><b>【日本語学習者の学び】</b> 日本の生活習慣を学ぶと同時に、フィリピンと日本の違いが分かりました。フィリピンの季節は雨季と乾季の2つですが、日本には四季があります。</p> <p><b>【アクション・プラン】</b> 「レッツ・ゴー・グリーン」と題して、プラスチックの使用量を50-70%減らし、環境に配慮した学校づくりをめざす運動をします。後期を通じて実施し、毎週水曜の授業後にモニタリングレポートを提出します。校舎ごとに選抜した生徒と生活指導係が中心となり、学校全体に働きかけます。</p>	<p><b>【訪日中の学び】</b> 日本は温かいおもてなしで知られていますが、人々は信じられないくらい互いに敬意をもっていて、丁寧でした。</p> <p><b>【日本語学習者の学び】</b> 「和」という考えが大事で、コミュニケーションや問題解決の方法にも影響を与えています。</p> <p><b>【アクション・プラン】</b> 2つのプランを実施します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● “プロジェクト・ナップ”は、日本語を習いたいけれど機会がない生徒を対象に、ビデオ教材やアクティビティーを通じて日本語を教える企画です。12月31日までにグループ全員で実施します。</li> <li>● “プロジェクト・ココ”は、日本語クラブの生徒が、他の生徒を対象に12月31日までに実施します。クラブ活動を通じて自分たちが体験した日本の文化や習慣を広める活動です。</li> </ul>

実施団体名：一般財団法人日本国際協力センター（JICE）